

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 22 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520587

研究課題名（和文）尚家文書の史料学的分析による近世琉球の国家と社会の特質に関する研究

研究課題名（英文）Research to which nation in Ryukyu at the early modern age and characteristic of society are clarified by analyzing Sho documents in paleography

研究代表者

豊見山 和行（TOMIYAMA KAZUYUKI）

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：40211403

研究分野：歴史学（琉球史）

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：琉球国、尚家文書、冊封儀礼、僉議、身分制、生業史

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、尚家文書（国宝）を用いて近世琉球の国家と社会の両側面を解明することにある。そのため、第一に、近世琉球の国家的特質が顕著に現れる対中国関係（特に冊封関係）を検討する。冊封儀礼関係は、尚家文書中では多数を占める。その中で旧来、未検討文書の分析を行う。第二に、琉球社会の特質については、僉議などの史料に表れた士族社会の相続、昇進の問題などについて検討し、近世琉球固有の身分制度（士族身分と百姓身分の二大区分制）を新たな視角から分析する。いずれもフルテキストデータを作成した上で分析を行う。第三に、近年新たに修復された尚家文書のマイクロ撮影・紙焼きによる史料の収集を行う。

2. 研究の進捗状況

(1)基本データに関しては、「冊封謝恩御使者渡唐日記」、「冊封謝恩御使者渡唐日記」、「道光十八年 冠船方子之方御規式并諸士出家江御膳拝領日記」、「僉議」などの入力作業によってフルテキストデータを構築した。

これらの全文テキストデータの入力によって中国へ派遣された冊封に対する謝恩使節の実相を旧来以上に詳細に把握することが可能となった。謝恩使節の出発前における諸儀礼や北京までの道中における中国側の処遇など、旧来不明確であった部分も詳細に記録されている。

(2)マイクロフィルム撮影・紙焼きによって収集したものは、「納殿染賃例」、「天使字蹟集」、

「冠船付御書院日記」、「武具其外唐人江相尋候書付写」、「冠船付塩硝帳」、「寅秋走進貢船仕出日記」、「寅秋走進貢船帰帆日記」、「唐御注文」、「唐御注文扣 帳當座」、「大和江遣状帳當座」、「遣状 鹿児島大坂江 帳當座」、「従大坂下状 帳當座」、「産物方日記」、「御庖丁人江新家譜被下候僉議抜」、「両先嶋御檢使日記」、「両先嶋御檢使日記」、「散形付並似例」、「伊平屋玉御殿清明御祭祀」、「冠船御礼式日記 諭祭」などである。

(3)本研究テーマに関して、国家論については、1719 年に来琉した冊封使一行への琉球側の対処方法に関して学会発表を行い（第 12 届中琉歴史関係学術会議、2009 年、中国青島市）、同論考を公刊した。社会論については、琉球の身分制に関する論考、および百姓の年貢負担体系や生業形態を中心に分析した論考を公刊した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

当初計画において設定した 3 つの柱（基本的史料の全文テキスト入力、マイクロフィルム撮影・紙焼きによる新規文書の収集、尚家文書等を用いた学術発表および論考の公刊）がおおむね達成されていることによる。

4. 今後の研究の推進方策

2011 年度が最終年度であることから、基本的史料の全文テキスト入力、マイクロフィル

ム撮影・紙焼きによる新規文書の収集に加えて、これまでの成果の上に立ち、本研究に関して全体的に総括した論考を作成するものとする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 1 件)

豊見山和行、冊封関係と琉球、『甦る琉球王国の輝き』(沖縄県立博物館・美術館)、査読無し、2008年、14—15 ページ。

〔学会発表〕 (計 3 件)

① 豊見山和行、船と琉球史—近世の琉球船をめぐる諸相—、関西大学文化交渉学教育研究拠点国際シンポジウム、2010年10月16日、琉球大学教育学部(沖縄県西原町)。

② 豊見山和行、徐葆光の琉球来航(1719年)とその後—冊封使節への対応の諸相—、第12届中琉歴史関係学術会議、2009年11月21日、中国海洋大学(青島市)。

③ 豊見山和行、敗者の戦略としての琉球外交—唐・大和の御取合を飼い慣らす—、立教大学史学会、2009年6月27日、立教大学(東京)。

〔図書〕 (計 5 件)

① 豊見山和行 (共著)、昭和堂、『グローバリゼーションと<生きる世界>』(「土地所有・雑物・喰実畑—近世琉球の年貢賦課と生業形態」)、2011年、137—165 ページ。

② 豊見山和行 (共著)、吉川弘文館、『<江戸>の人と身分 6 身分論をひろげる』(「近世琉球の土と民(百姓)」)、2011年、158—182 ページ。

③ 豊見山和行 (共著)、第十二届中琉歴史関係学術会議、『第十二届中琉歴史関係学術会議論文集』(「徐葆光の琉球来航(1719年)とその後—冊封使節への対応の諸相—」)、2010年、32—45 ページ。

④ 豊見山和行 (共著)、沖縄県教育委員会、『沖縄県史各論編 第三巻古琉球』(「明朝の成立と朝貢開始期の諸問題」)、2010年、161—178 ページ。

⑤ 豊見山和行 (共著)、沖縄タイムス社、『やわらかい南の学と思想』(「近世琉球史像の見直し—紛争・商売・盗難—」)、2008年、32—41 ページ。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕